

博物館だより



和歌山県立博物館
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.18
2013.3



白浜町立富田小学校における防災教育の実践報告



パネルディスカッションでの意見交換

フォーラム

「来たるべき“南海大震災”に備えて
—過去からの警鐘に学ぶ—」(田辺市)

過去からの警鐘を 未来につなぐ



濱ノ瀬地区での聞き取り調査



濱ノ瀬地区にある
「津浪之記事」碑

災害記念碑の調査(美浜町)

先 人たちは、自ら経験した災害を忘れないようにするため、災害記念碑を建て、文書に記して、後世の私たちに「災害の記憶」を伝えてくれました。
東海・東南海・南海地震がいつ起こるか分からない状況のなかで、先人達が残してくれた「災害の記憶」を風化させることなく、子孫に伝えていこうとする取組が各地で行われています。

県立博物館の取組を学校や地域へ

県立博物館では、平成24年春に特別展「災害と文化財」を開催し、文化財レスキューや防災教育に関わる講演会などを実施して、防災について考えていただく機会をもちました。展覧会終了後も「災害の記憶」を共有していくために、災害記念碑の所在調査や「災害の記憶」に関する聞き取り調査を継続的に行ってきました。

調査によって確認できた災害記念碑については、その所在地を一覧にまとめ、博物館のホームページで公開しています。「災害の記憶」をできるだけ多くの人と共有し、その記憶を継承していく取組へとつなげていきたいと考えています。

また、フォーラム「来たるべき、南海大震災」に備えて」を開催し、災害記念碑等の文化財を活用した取組について、学校・社会教育関係者が意見交換を行い、これからの取組について考える機会となりました。

県立博物館では、自らの生命と財産(文化財等)を守っていく活動(学校での防災教育や地域における自主防災組織の取組)が一層推進されるよう、今後も地域や学校と連携して取り組む、その橋渡しとなるよう活動を続けていきます。

「災害の記憶」を伝える記念碑や古文書について、何かご存じの情報がありましたら、県立博物館までお知らせください。

特別展

紀伊国栲田荘と文覚井

—水とともに生き、水を求めて闘う—

10月26日(土)～
12月1日(日)

紀伊国栲田荘(和歌山県かつらぎ町笠田地区周辺)

は、中世の村落景観を描いた二枚の絵図(神護寺蔵と宝来山神社蔵)が残されていることで有名です。

この特別展では、中世以来、

笠田地域の水田を潤した基幹水路である文覚井(一ノ井・二ノ井・三ノ井)、近世初頭に木食

応其によって改修されたと考えられる太尾池、近世中期に大畑才蔵によって開削された小田井

など、水との関わりに視点を置きながら、笠田地域やその周辺に残された貴重な文化財を紹介し、その歴史を明らかにしていきます。あわせて、危機に瀕している文覚井(和歌山県指定史跡)の現状を紹介し、貴重な文化財をいかにして後世に残していくかを考える機会にしたいと思います。



重要文化財 栲田荘絵図 神護寺蔵



重要文化財 栲田荘絵図 宝来山神社蔵



上人滝(文覚井一ノ井の水が、風呂谷川の源流に落ちるところ)



宝来山神社(左)と神願寺(右)

所蔵者不明の盗難文化財 博物館で保管しています

平成22年(二〇一〇)から同23年春にかけて、和歌山県では文化財の盗難被害が多発しました。犯人逮捕後、証拠品として押収・提供された文化財のうち、所蔵者の判明したものについては順次返却されましたが、その後も所蔵者不明のままの資料が一定量残されました。

和歌山県立博物館では、こうした経緯をもつ文化財を和歌山県警察から引き継ぎ、保管しています。和歌山県の歴史を伝える貴重な文化財を、一つでも、本来の所蔵者の元に戻すことができるよう、展示やホームページを通じて情報を公開しています。

心当たりのある方は、どうぞ博物館までお問い合わせ下さい。



博物館で保管している所蔵者不明の文化財

■ お問い合わせ先 ■

和歌山県立博物館
TEL (073) 436-8670
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

特別展

桑山玉洲のアトリエ

—紀州三大文人画家の一人、

その制作現場に迫る—

4月27日(土)～
6月2日(日)



梅花書屋図 桑山玉洲筆 個人蔵



画材道具類(桑山玉洲所用) 個人蔵

和歌浦出身で、江戸時代の紀州を代表する文人画家である桑山玉洲(一七四六～九九)は、家業の廻船業を継ぐかたわら、画家を志し、中国の絵などを参考に、ほぼ独学で絵を学びました。近年、その玉洲が収集していた中国の書画や、玉洲が使用していた画材道具・印章などが一括で発見され、玉洲の画室(アトリエ)の状況が明らかになってきました。こうした資料は、玉洲の絵画制作を知るうえできわめて重要な資料であるとともに、江戸時代の文人画家がどのような中国絵画を学び、どのような絵画制作をおこなっていたかを示す具体的な資料でもあります。この特別展では、それらの玉洲旧蔵資料とともに、玉洲の代表作を展示し、彼の絵画制作の過程に迫ります。

特別展

黄河と泰山

—中華文明の源と世界遺産—

9月14日(土)～
10月20日(日)



泰山(十八盤)

この特別展では、山東省あるいは中国を代表する自然資源の黄河と泰山に育まれてきた山東省の悠久の歴史・文化を県民の皆様で紹介するものです。

山東省では、古来、黄河文明の一端を担う大汶口文化・山東龍山文化といった高度の文明が生まれています。そして春秋戦国時代には、日本にも大きな思想的影響を与えた孔子を初めとする多くの思想家が誕生しました。また、秦の始皇帝以来、歴代の多くの皇帝は泰山で封禪の儀礼を行い、また孔子への畏敬の念から、多くの宝物を孔家へ奉納してきました。そして、泰山は道教や仏教の信仰の対象にもなり、多くの中国の人々の心の中で大切な存在として、様々な文化が生み出されてきました。黄河と泰山により育まれた中国文明を代表する文物、さらにはわが国への歴史・文化にも影響を与えてきた数々の作品を、

山東省の悠久の歴史に思いをはせながら、お楽しみください。

| 企画展 | 企画展 | 企画展 | 特別展 | 特別展 | 企画展 | 企画展 | 特別展 | 企画展 | 常設展 |
|---|---|--|--|---|--|---|--|------------------------|--------------------------|
| 新収蔵品展 | 文化財の「ことば」と「なまえ」 | 仮面の諸相 — 乾武俊氏の収集資料から — | 紀伊国杵田荘と文覚井 — 水とともに生き、水を求めて闘う — | 黄河と泰山 — 中華文明の源と世界遺産 — | 未来へ伝えよう 私たちの歴史 — 文化財の魅力発見! — | 大工の仕事 | 桑山玉洲のアトリエ — 紀州三大文人画家の人、その制作現場に迫る — | 文化財受難の時代 — いかを守るか — | きのくにの歩み — 人々の生活と文化 — |
| 3月8日～4月20日 | 1月25日～3月2日 | 12月7日～1月19日 | 10月26日～12月1日 | 9月14日～10月20日 | 7月20日～9月1日 | 6月8日～7月15日 | 4月27日～6月2日 | 3月9日～4月21日 | 4月2日～9月1日 12月7日～3月30日 |
| <p>和歌山県立近代美術館（博物館となり）の展覧会</p> <p>日本全国の美術展 3「美術の時間」</p> <p>なつやすみの美術館 3「美術の時間」</p> <p>生誕120年記念 石垣栄太郎</p> <p>物質と美術</p> <p>版画について考える</p> <p>※このほか、特別事業や通年でコレクション展も開催されます。</p> | <p>和歌山県立近代美術館（博物館となり）の展覧会</p> <p>日本全国の美術展 3「美術の時間」</p> <p>なつやすみの美術館 3「美術の時間」</p> <p>生誕120年記念 石垣栄太郎</p> <p>物質と美術</p> <p>版画について考える</p> <p>※このほか、特別事業や通年でコレクション展も開催されます。</p> | <p>「その面を売ってくれませんか。私は今夜、短かつた青春を捨て、私の故郷へ帰るのです。」（乾武俊詩集『面』より）。詩人であり、民間仮面に注目する民俗文化研究者である、和歌山市出身の乾武俊氏が収集した資料から、仮面の多様な造形と魅力に迫ります。</p> <p>日本の文化財には、難しい「ことば」や「なまえ」が使われています。この企画展では、そうした「ことば」のルールや使い方を紹介し、実際の展示している文化財をわかりやすい言葉で説明することで、和歌山の文化財をもっと身近に感じてもらうように思います。</p> <p>県立博物館は、和歌山県ゆかりの文化財について、収集・保管・研究・展示・教育普及という仕事をしています。この企画展では、この5年間に県立博物館が購入や寄贈によって収集した資料を、県民のみならず初めて公開します。</p> | <p>和歌山県と友好関係を結んでいる中国・山東省には、黄河が流れ、泰山がそびえ立っています。これらに育まれた中国文明の貴重な文物を、山東省の歴史と関係づけて紹介します。県立博物館で山東省の文物を展示するのは、一五年ぶりのことです。</p> <p>中世の村落景観を描いた絵図で有名な紀伊国杵田荘（和歌山県かつらぎ町笠田地区周辺）を取りあげ、基幹水路である文覚井や小田井との関わりを視点置きながら、笠田地域や周辺に残された貴重な文化財を紹介し、その歴史を明らかにしていきます。</p> | <p>和歌山県には、歴史のある建築物がたくさんあります。この企画展では、棟札などの建築部材、本宮大工や根来大工に関わる資料、建築風景を描いた絵巻物などの資料をもとに、平安時代以降の和歌山で寺院・神社の建築にたずさわった大工の姿について紹介します。</p> <p>文化財とは、人々が今日まで、どのように生きて、どのようなことを考えてきたのかを伝えてくれる、大切な証となるものです。和歌山県の豊かな歴史を知り、文化財の魅力に親しみながら、それらを残し伝えることの大切さについて考えます。</p> | <p>桑山玉洲（一七四六～九九）は、和歌浦出身で、江戸時代の紀州を代表する文人画家です。この特別展では、玉洲の作品とともに、玉洲が収集した書画や、玉洲が使用した画材道具・印章など近年発見された資料を展示し、玉洲のアトリエや、絵画制作の過程を紹介します。</p> | <p>近年、和歌山県内では文化財の盗難事件が多く発生しています。また人為的に破損を受けたり、災害に遭って失われた文化財も少なくありません。身近に残る文化財を未来へと引き継いでいくために、私たちが今なにをすべきか、展示を通してお伝えします。</p> | <p>三万年にわたる、きのくに（和歌山県）の歴史を、人々の生活と文化を主軸として、わかやすく展示します。特別展「黄河と泰山」「紀伊国杵田荘と文覚井」の開催期間中は、常設展の一部または全部を行っていない場合がありますので、事前にお問い合わせください。</p> | | |

お知らせ

◆博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドをご提供しています（一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円）。常設展については、上級コース・英語版もあります。

◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。

URL <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

和歌山県立近代美術館（博物館となり）の展覧会

日本の絵画の50年

なつやすみの美術館 3「美術の時間」

生誕120年記念 石垣栄太郎

物質と美術

版画について考える

※このほか、特別事業や通年でコレクション展も開催されます。

和歌山県立博物館 博物館だより 第18号

編集 和歌山県立博物館

〒640-0813 和歌山市吹上二丁目4番14号

TEL (073) 436-8670

<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

平成25年(2013)3月発行

和歌山県立博物館友の会

— 平成25年度会員募集 —

友の会では、バスツアー、書籍の割引販売などの事業を行っています。入会のお申し込み・お問い合わせは友の会事務局（TEL.073-436-8670）まで。

交通

JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

〈桑山玉洲のアトリエ〉 (常設展示も行っています)

| | | |
|----|------|------|
| | 一般 | 大学生 |
| 個人 | 500円 | 300円 |
| 団体 | 400円 | 250円 |

〈黄河と泰山〉
〈紀伊国杵田荘と文覚井〉

| | | |
|----|------|------|
| | 一般 | 大学生 |
| 個人 | 800円 | 500円 |
| 団体 | 650円 | 400円 |

〈常設展・企画展〉

| | | |
|----|------|------|
| | 一般 | 大学生 |
| 個人 | 280円 | 170円 |
| 団体 | 220円 | 140円 |

※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料です。
※団体申込みは、和歌山県電子申請システム (<http://www.pref.wakayama.lg.jp/sinsei/notice.html>) からでも申し込みできます。必要事項を記入のうえ、お申し込み下さい。
※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

入館料

| | | | | |
|---------|-----|------|-------|------|
| 1時間まで | 来館者 | 200円 | 来館者以外 | 300円 |
| 以後30分ごと | | 100円 | | 100円 |

※大型バスをご利用の場合はお問い合わせ下さい。

博物館の利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始。展示替えにもなつて臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

駐車場